

# 恩師の近況

## SWC元気点検票を開発

平成 16 年退官 山本光璋

現在、東北福祉大学感性福祉研究所で学部及び大学院教育に携わる傍ら、ひとびとの「健康向上」のための社会システム構築を目指したプロジェクト（文科省事業）に参画しています。皆さんは、「元気」という言葉の意味をどのように捉えていますか？ 私たちは、元気とは命あるものが生きていく事への前向きの姿勢を表すことばであり、病気や怪我とか、介護状態などの困難や苦難にあっても、それを乗り越えて生きて行こうとする「意欲」と「能力」の源泉と捉えています。健康は、簡単に人からもらうことはできませんが、元気は、その気になれば、いくらでももらうことができますね。私が携わっている仕事は、健康向上を果たすには、病気予防という守りだけでなく積極的な攻めの戦略姿勢が重要であるという理念の下で行なっている、「SWC 元気点検票」の開発と言ってよいでしょう。SWCとは、Sendai Wellness Consortium の略称になります。



SWC 元気点検票の点検項目は、攻めの戦略をたてるために必要な「食」、「息」、「眠」、「温」、「動」、「想」、「性」の7つのグループに加えて、社会及び自然環境とのかかわりの「環」、これら8つのグループについての項目群と、守りを固めるために、痛みや諸々の不具合や過剰なストレスがないことを点検するための「安心」グループについての項目群、そして、8つのグループについての「満足度」項目と、安心グループについての「安心度」項目、全てを総合した、自分の健康に対する「総合的満足度」と呼ばれる項目、以上96項目から成っています。各項目はたとえば、「食事はゆっくり楽しんで食べてい

ます」というような、健康に良いことがわかっている知識や経験則の自己確認型の文から出来ており、自分の最近の現状が「どちらかと言えばその通り」なら3点、「ほぼその通り」なら4点、「全くその通り」なら5点、一方、「どちらかと言えば違う」なら2点、「全く違う」なら1点を選ぶことで、学習と行動変容の両者を導くような仕掛けになっています。そして、各項目の評価結果の現在値と時間差分から「元気姿勢スコア」と呼ぶ新たな量を定義し、これを以って目的である“元気”を測るメジャーとしています。要は健康分野に動力学の基本である時系列のダイナミクスのメジャーを導入したということです。現在このメジャーの実用化と普及に向けたマーケティングにも尽力しています。関心のある方は、<http://genki.sendai-wellness.jp/> のお問い合わせで最新バージョンをご請求ください。簡略版について自己点検することが出来ます。

最終講義で「ゆらぎ塾」構想を話しましたが、その後名称を“スクール・オブ・フラクチュオマティクス・ジャパン (SFJ)”と改称し、その事務局を私の研究室に置いて、細々ながら活動しています。この活動は長年電気・情報系でゆらぎに関する研究をさせていただいた成果やその思想、経験の社会への情報発信と位置づけており、上記のSWC 元気点検票の開発も実はその一環と認識しています。しかし、目下孤軍奮闘の状態です。同窓会メンバー有志のバックアップを秘かに期待しています。関心のおありの方は、<http://www.fluctuomatics.org/> をご覧ください。また、関連して渋谷寿氏執筆の“ゆらぎからのメッセージ”（東北大学出版会、2006.8）もご覧いただければ幸いです。

いろいろとPR やお願いを申し上げましたことお許しください。最後になりましたが同窓会会員各位の“元気”と一層のご活躍をお祈り申し上げて結びとします。

## 近況報告

平成 16 年退官 潮田資勝

私が東北大通研を辞して北陸先端科学技術大学院大学（長すぎる名前なので北陸先端大あるいはJAISTと呼んでいるが、能登半島の先端にあるわけではない）に学長として赴任してから既に3年半が経ちました。来年3月で4年の任期満了となります。この間、金沢に移り住んで色々新しい経験をしました。カリフォルニア大から東北大に移ったときと同様に、新しい実験を始めるような

気持ちで仕事に就いて、学長の仕事を大体は楽しく過ごしました。あまり苦しいことはなかったという印象が残っています。私が国立大学法人化後最初の学長でしたので、正に実験的学長職と言ってもよいと思います。



北陸先端大は学生数約1,000人、教員と事務職員が大体同数で150人ずつという小さな大学なので、東北大だと本部事務局に当たる部署が全学の事務をやっています。そこで学長